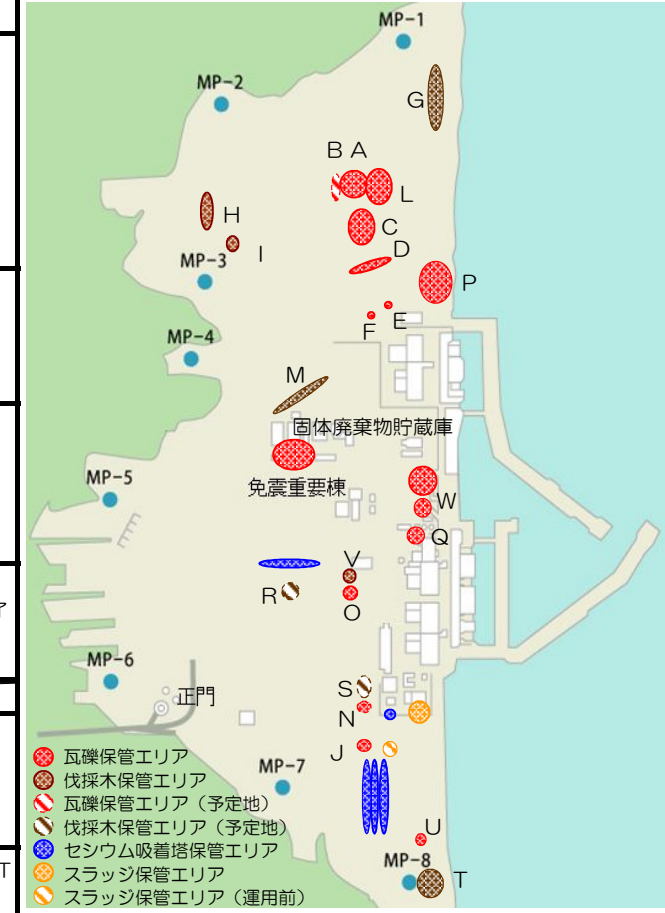






## ガレキ・伐採木の管理状況(2015.6.30時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量 <sup>*1</sup>	前回報告比 <sup>*2</sup> (2015.5.30)	変動 <sup>*3</sup> 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
ガレキ 屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	54,500 m <sup>3</sup>	-1,000 m <sup>3</sup>	①	96%	102400 / 168100 (61%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主なガレキは、工事で発生した廃材。</li> <li>エリアP1造成完了、運用準備開始(2014年10月24日)</li> <li>瓦礫受入開始(2015年1月19日)</li> <li>エリアN瓦礫受入開始(2015年4月16日)</li> </ul>
	F	屋外集積	0.01	4,900 m <sup>3</sup>	+700 m <sup>3</sup>	②	66%		
	J	屋外集積	0.02	3,300 m <sup>3</sup>	-1,400 m <sup>3</sup>	③	68%		
	N	屋外集積	0.01	200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	2%		
	O	屋外集積	0.02	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	95%		
	P	屋外集積	0.01未満	12,600 m <sup>3</sup>	+2,000 m <sup>3</sup>	⑥	21%		
	U	屋外集積	0.01未満	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
ガレキ シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	88%	30600 / 48300 (63%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主なガレキは、工事で発生した廃材、建屋内に設置していた撤去機器、水処理で使用したホース類及び廃車両。</li> <li>今後発生量の増加が見込まれるため、廃棄物発生量の抑制や既保管物の減容処理を進めていく。</li> <li>エリアP2造成完了、運用準備開始(2014年10月24日)</li> </ul>
	E	シート養生	0.03	7,000 m <sup>3</sup>	+1,000 m <sup>3</sup>	⑥	43%		
	P	シート養生	0.01未満	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0%		
	W	シート養生	0.03	21,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	72%		
ガレキ 覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	8,700 m <sup>3</sup>	+700 m <sup>3</sup>	⑤⑦	72%	17800 / 27700 (64%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去されたガレキ。</li> <li>1号機ガレキ撤去に向けて、覆土式一時保管施設3,4槽設置(8,000m<sup>3</sup>)の安全協定に基づく事前了解(2014年8月12日)。</li> <li>エリアE2造成完了、運用準備開始(2014年10月24日)</li> <li>保管容器<sup>*4</sup>受入開始(2014年12月9日)</li> <li>覆土式一時保管施設3槽受入開始(2015年6月23日)</li> </ul>
	A	仮設保管設備	0.30	2,800 m <sup>3</sup>	-600 m <sup>3</sup>	④	39%		
	E	容器	0.01未満	100未満 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	3%		
	F	容器	0.01	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	99%		
ガレキ 固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器	0.03	5,600 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	47%	5600 / 12000 (47%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主なガレキは、原子炉建屋上部等で撤去された高線量ガレキ。</li> <li>第9棟設置(ドラム缶 約11万本)に向けて安全協定に基づく事前了解(2014年8月12日)。</li> <li>第9棟設置に伴う実施計画変更認可(2015年7月17日)</li> </ul>
	合計(ガレキ)				156,600 m <sup>3</sup>	+1,500 m <sup>3</sup>	—	61%	
伐採木 屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01	15,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	86%	64100 / 88200 (73%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主にエリアP1造成により伐採した幹・根を受入。</li> <li>その他工事で発生した幹・根を随時受入中。</li> </ul>
	I	屋外集積	0.01	10,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	100%		
	M	屋外集積	0.01	38,400 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	85%		
	V	屋外集積	-	0 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	0%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	7,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	—	27%	
合計(伐採木)				82,500 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	—	60%		



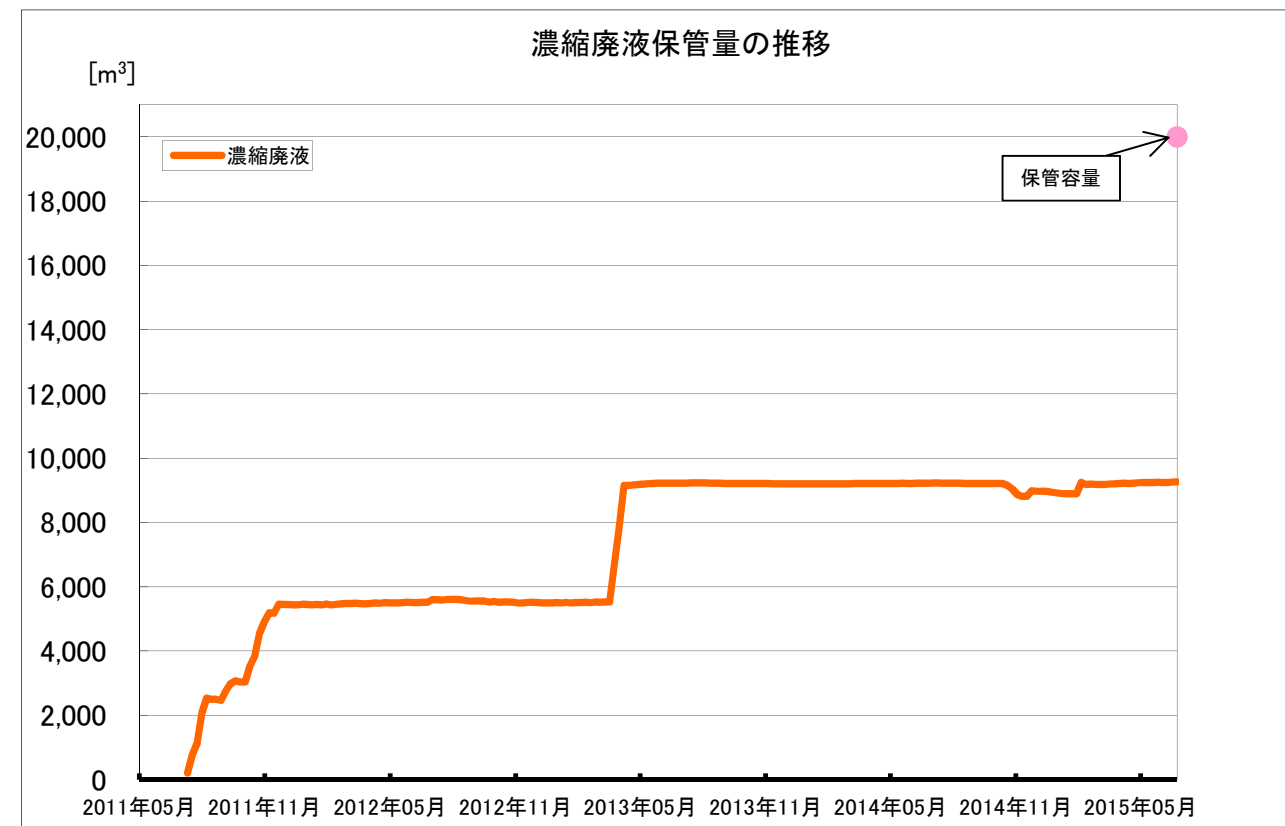
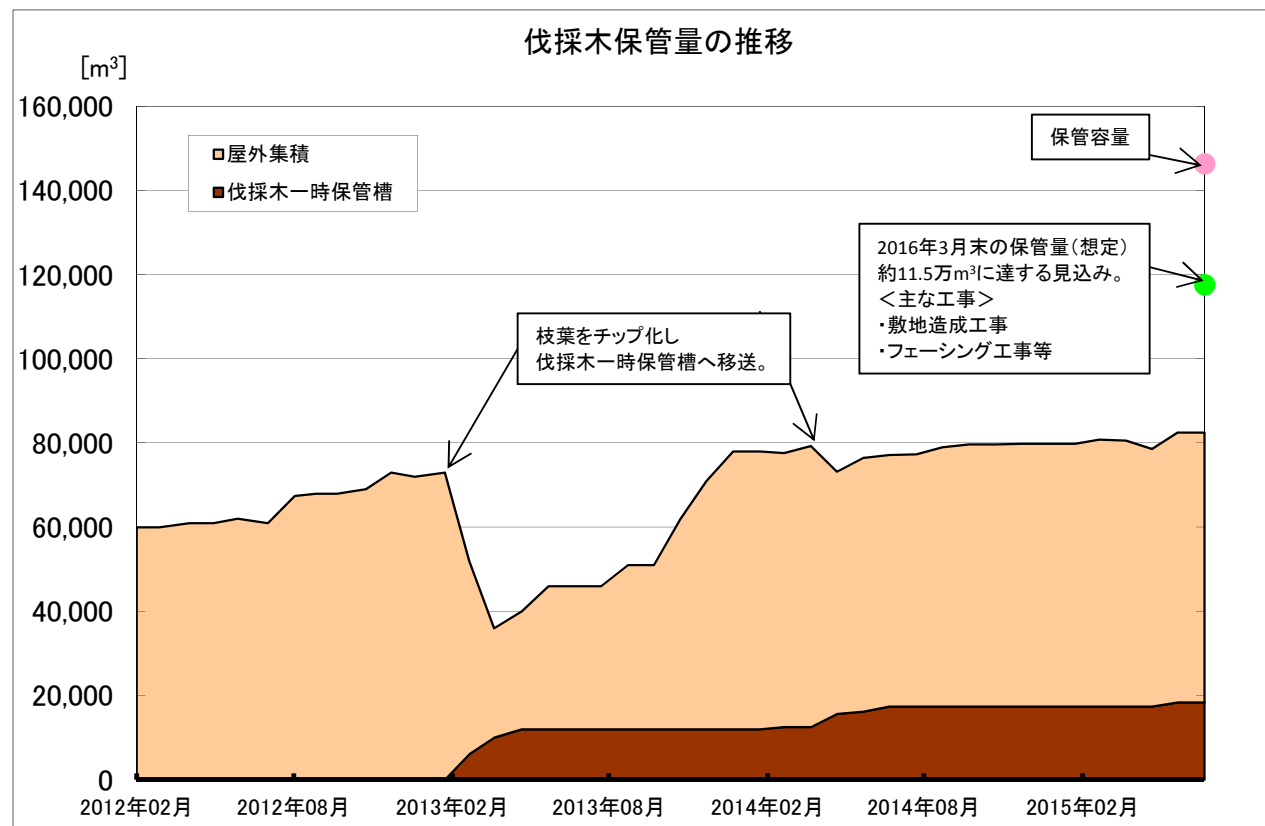
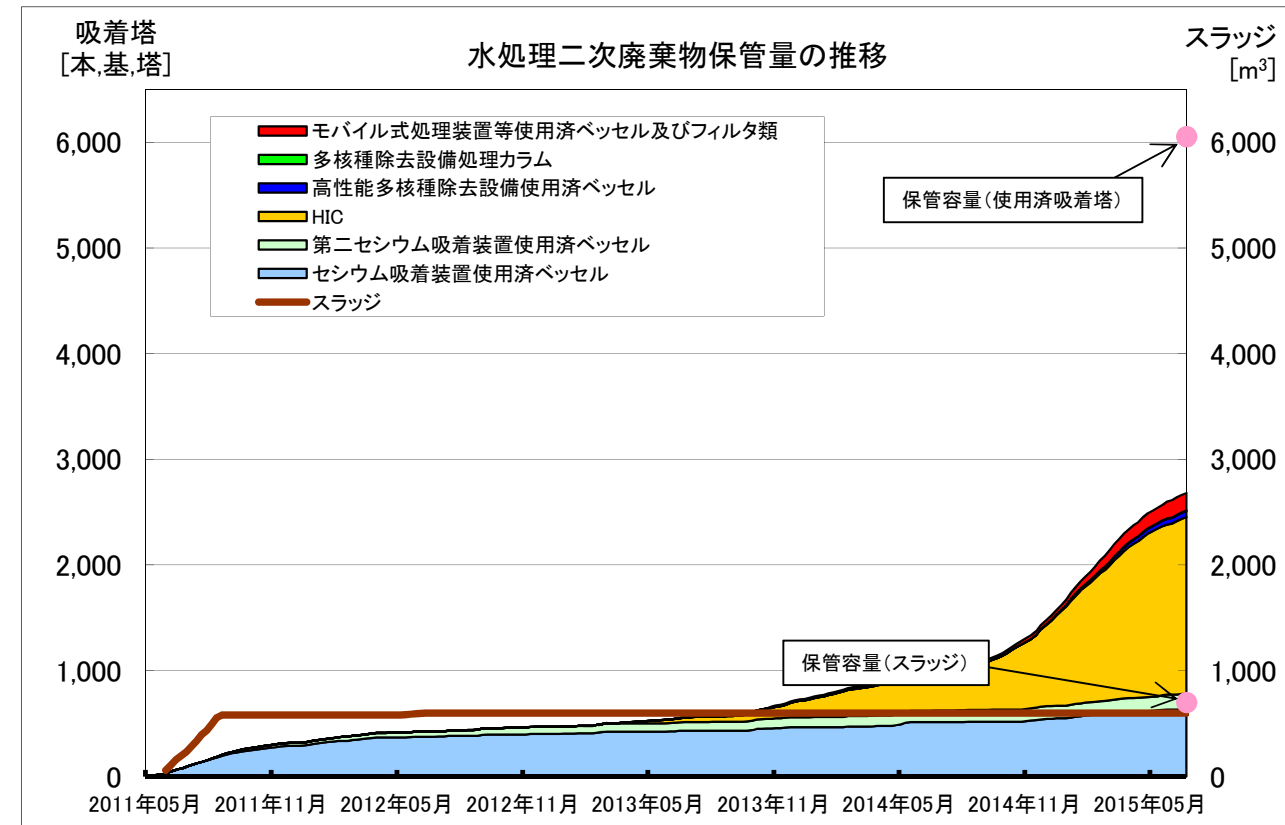
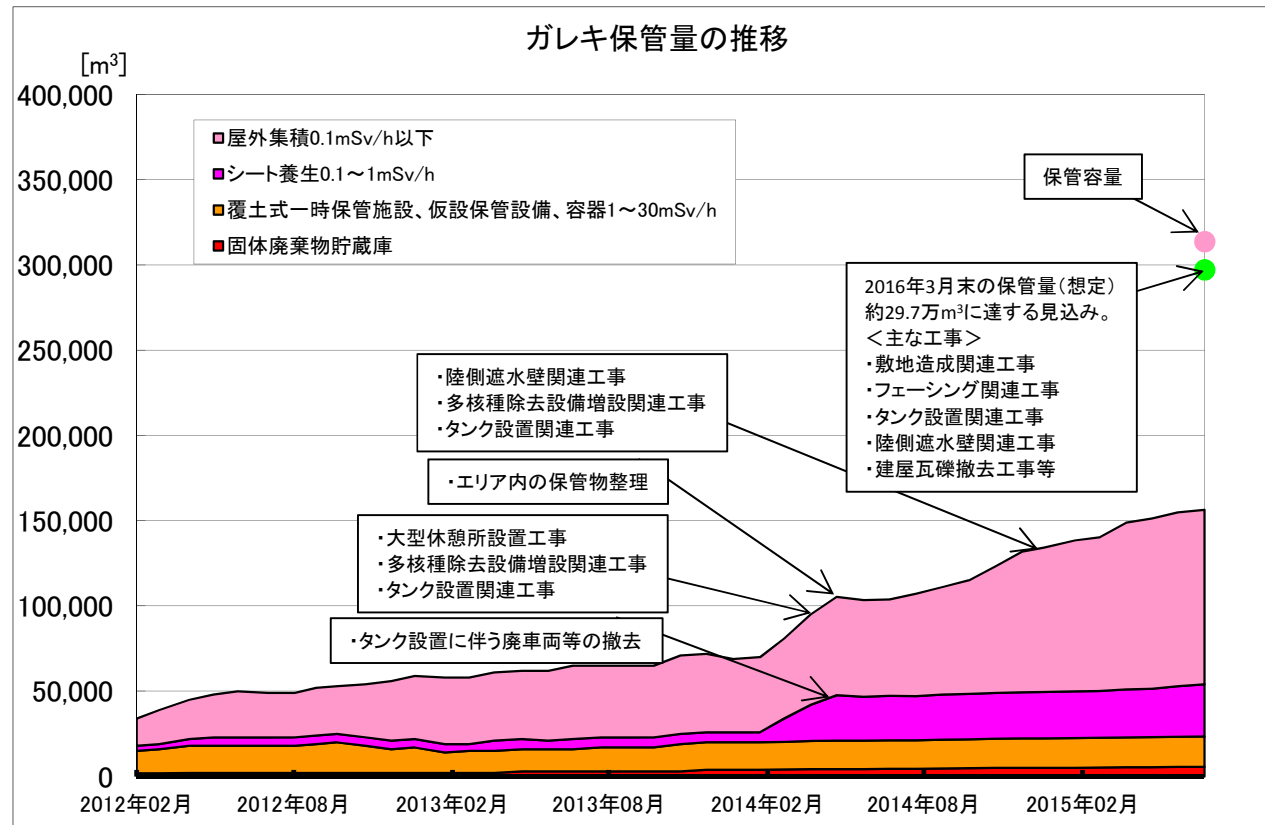
※1 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。  
 ※2 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは100m<sup>3</sup>未満の増減を示す。  
 ※3 主な変動理由：①焼却対象物の集約作業 ②焼却対象物の受入 ③エリア整理のため一時保管エリアCへ移動 ④覆土式一時保管施設(3槽)への搬入 ⑤仮設保管設備からの受入  
 ⑥フェーシング工事 ⑦1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 等  
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

## 水処理二次廃棄物の管理状況(2015.7.23時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2015.6.25)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	638 本	+4 本	2683 / 6055 (44%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>多核種除去設備の高性能容器を保管する使用済吸着塔一時保管施設(第三施設)全容量(容量3,456本)の使用前検査終了(2015年4月13日, 1,536本増)</li> <li>使用済吸着塔一時保管施設(第一施設)の吸着塔保管ラック復旧(50本増)</li> </ul>	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	142 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,033 基			+26 基
			増設	642 基			+39 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	57 本			+3 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	5 塔			+2 塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		166 本	+4 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	597 / 700 (85%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。</li> <li>準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。</li> </ul>	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,260 m <sup>3</sup>	+11 m <sup>3</sup>	9260 / 20000 (46%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし)</li> </ul>	



# ガレキ・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液の保管量推移





IRID

# 汚染水処理二次廃棄物の 放射能評価のための水試料分析

平成27年7月30日

技術研究組合 国際廃炉研究開発機構/  
日本原子力研究開発機構

本資料には、平成25年度「廃炉・汚染水対策事業費補助金(事故廃棄物処理・処分技術の開発)」成果の一部が含まれている。

# 概要

- 事故後に発生した固体廃棄物は、従来の原子力発電所で発生した廃棄物と性状が異なるため、廃棄物の処理・処分の安全性の見通しを得る上で試料の分析が不可欠である。
- これまで福島第一原子力発電所構内で採取した汚染水（水処理設備出入口水）、瓦礫、伐採木などの分析を実施してきたが、今回、水試料を採取して分析し、結果が得られたことから報告する。
- 今回の結果は、これまでに得られた分析結果などから想定されるもので特異な結果はないと考えている。
- 今後も継続的にデータを蓄積し、処理・処分の研究開発に活用していく。

# 廃棄物試料の分析状況

報告年度	試料	試料数	発表等
23-25	汚染水 <ul style="list-style-type: none"> <li>1～4号機タービン建屋滞留水等</li> <li>集中RW地下高汚染水</li> <li>濃縮廃水(RO)</li> <li>高温焼却炉建屋地下滞留水</li> <li>処理後水(セシウム吸着装置、第二セシウム吸着装置)</li> </ul>	25	<a href="http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/images/handouts_110522_04-j.pdf">http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/images/handouts_110522_04-j.pdf</a> <a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/120924/120924_01jj.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/120924/120924_01jj.pdf</a> <a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/130627/130627_02kk.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/130627/130627_02kk.pdf</a> <a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/131128/131128_01ss.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/131128/131128_01ss.pdf</a>
	ボーリングコア <ul style="list-style-type: none"> <li>1号機 1階(床、壁)</li> <li>2号機 1階(床)</li> </ul>	3	<a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/130828/130828_01nn.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/130828/130828_01nn.pdf</a>
	瓦礫 伐採木 <ul style="list-style-type: none"> <li>1、3、4号機周辺瓦礫</li> <li>伐採木(枝、葉)、3号機周辺 生木(枝)</li> </ul>	24	<a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/140130/140130_01tt.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/140130/140130_01tt.pdf</a>
	立木 <ul style="list-style-type: none"> <li>構内各所の立木(枝葉)</li> </ul>	30	<a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/140227/140227_02ww.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/140227/140227_02ww.pdf</a>
26	立木 落葉、土壌 <ul style="list-style-type: none"> <li>構内各所の立木(枝葉)及びそれに対応する落葉、土壌</li> </ul>	91	<a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/150326/150326_01_3_7_04.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/150326/150326_01_3_7_04.pdf</a>
	建屋内 瓦礫 <ul style="list-style-type: none"> <li>1号機・3号機原子炉建屋1階瓦礫</li> <li>2号機原子炉建屋5階(床)ボーリングコア</li> </ul>	10	<a href="http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/150326/150326_01_3_7_04.pdf">http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/150326/150326_01_3_7_04.pdf</a> 一部核種分析中
27	汚染水 <ul style="list-style-type: none"> <li>集中RW地下高汚染水</li> <li>高温焼却炉建屋地下滞留水</li> <li>処理後水(セシウム吸着装置、第二セシウム吸着装置)</li> </ul>	9	<b>今回報告内容</b>
	スラリー <ul style="list-style-type: none"> <li>多核種除去設備スラリー</li> </ul>	2	分析作業継続中

# 分析内容

- 水処理二次廃棄物のうち、発生量が多いセシウム吸着装置（KURION、SARRY）の吸着塔のインベントリを把握するため、吸着塔の入口水と出口水の濃度差を用いたインベントリ評価を実施している。
- これまで、半年毎に試料を採取し、入口水と出口水の核種濃度分析を実施してきており、今回は平成25年度に採取した試料を対象として、以下の核種の放射能分析を実施した。

γ線放出核種 :  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{94}\text{Nb}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ ,  $^{152}\text{Eu}$ ,  $^{154}\text{Eu}$

β線放出核種 :  $^3\text{H}$ ,  $^{90}\text{Sr}$

α線放出核種 :  $^{238}\text{Pu}$ ,  $^{239+240}\text{Pu}$ ,  $^{241}\text{Am}$ ,  $^{244}\text{Cm}$

- 取得した放射能データは、次の方法で整理。
  - 検出核種の放射能濃度
  - 水試料中の濃度推移

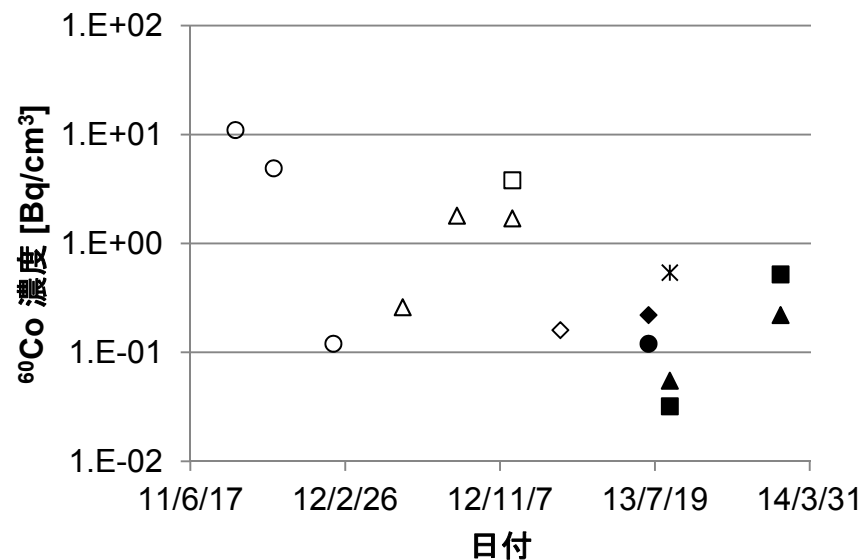
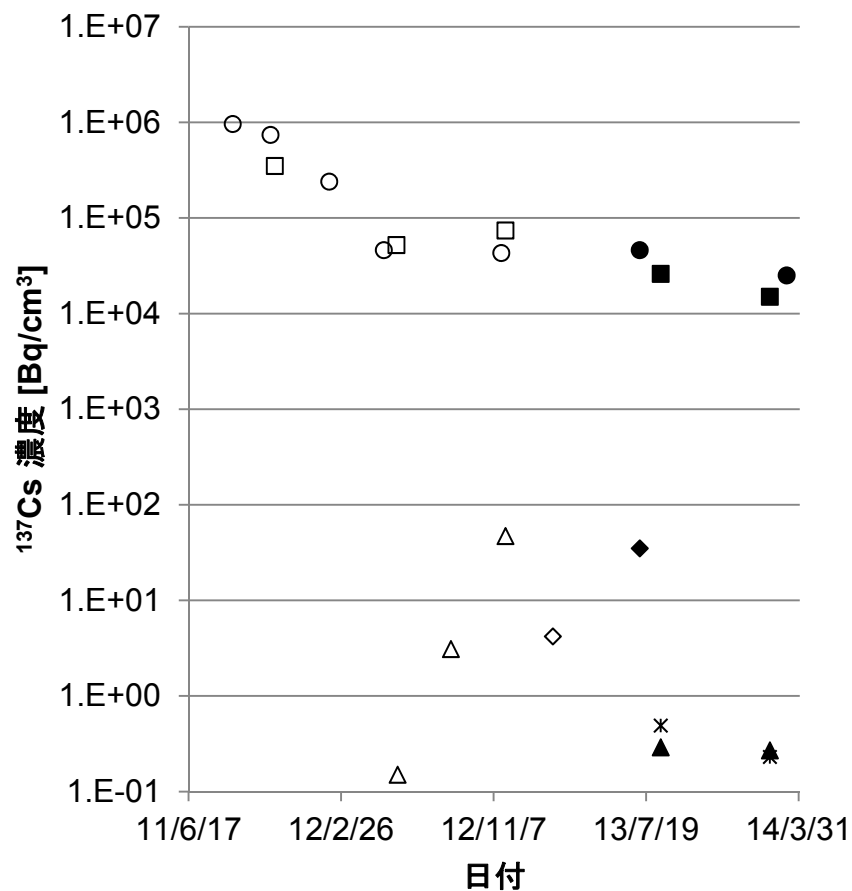


# 分析試料の情報

試料名		採取日	採取場所	線量率※ ( $\mu\text{Sv/h}$ )
入口水	LI-RW2-1	H25.7.9	集中RW地下高汚染水 (KURION入口水)	140
	LI-RW2-2	H26.3.11	集中RW地下高汚染水 (KURION入口水)	72
	LI-HTI2-1	H25.8.13	HTI/B地下滞留水 (SARRY入口水)	83
	LI-HTI2-2	H26.2.11	HTI/B地下滞留水 (SARRY入口水)	48
出口水	LI-KU2-1	H25.7.9	KURION出口水	13
	LI-SA2-1	H25.8.13	SARRY A系出口水	12
	LI-SA2-2	H25.8.13	SARRY B系出口水	12
	LI-SA2-3	H26.2.11	SARRY A系出口水	15
	LI-SA2-4	H26.2.11	SARRY B系出口水	17

※ 50mlを50mlバイアル瓶に収納したときの表面線量率。測定日はH26年8月7日であり、B.G.は4.5 $\mu\text{Sv/h}$ 。

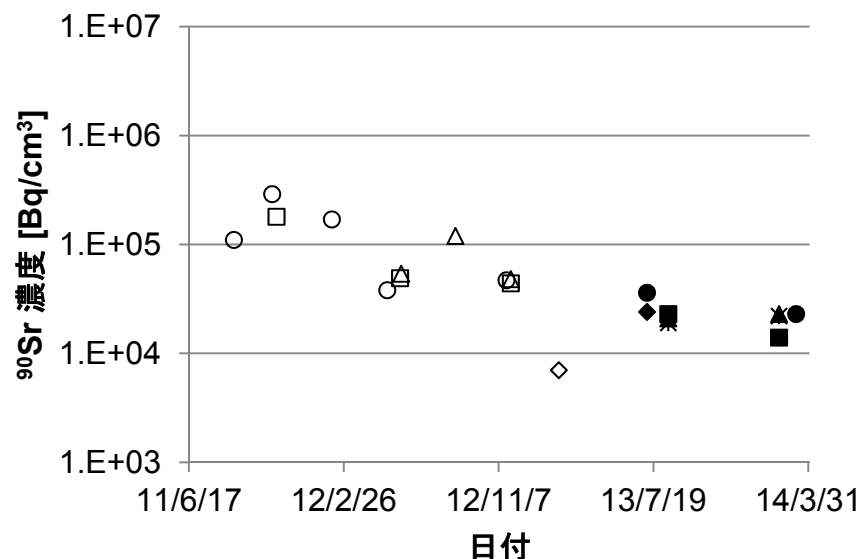
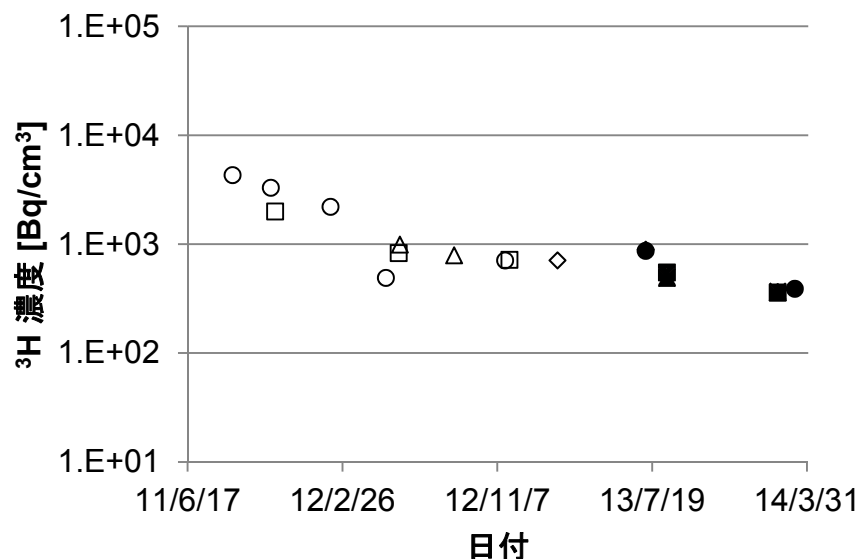
# γ線放出核種分析結果



●: KURION 入口水 (今回)	○: (既報告)
■: SARRY 入口水 (今回)	□: (既報告)
◆: KURION 出口水 (今回)	◇: (既報告)
*: SARRY A系 出口水 (今回)	
▲: SARRY B系 出口水 (今回)	△: (既報告)

- 137Cs: 入口水濃度の低下は鈍化したまま。出口水濃度は十分低い。
- 60Co: 変動が大きい。

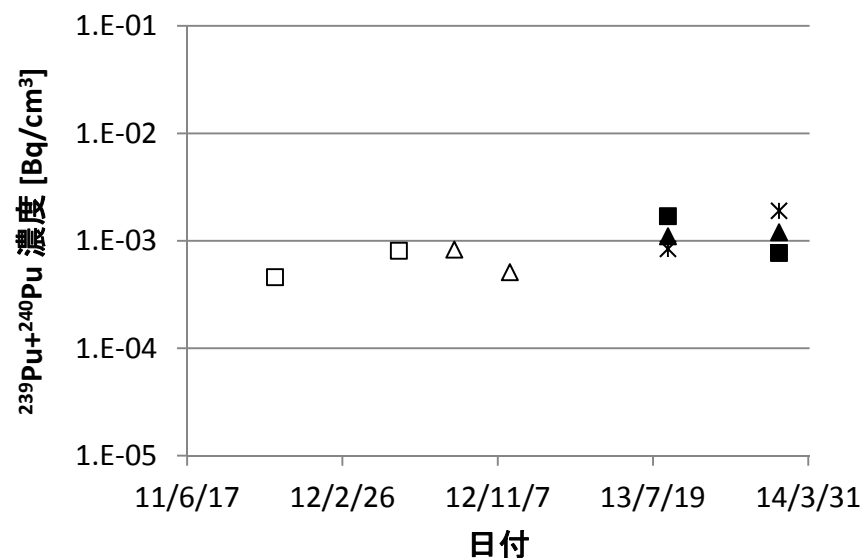
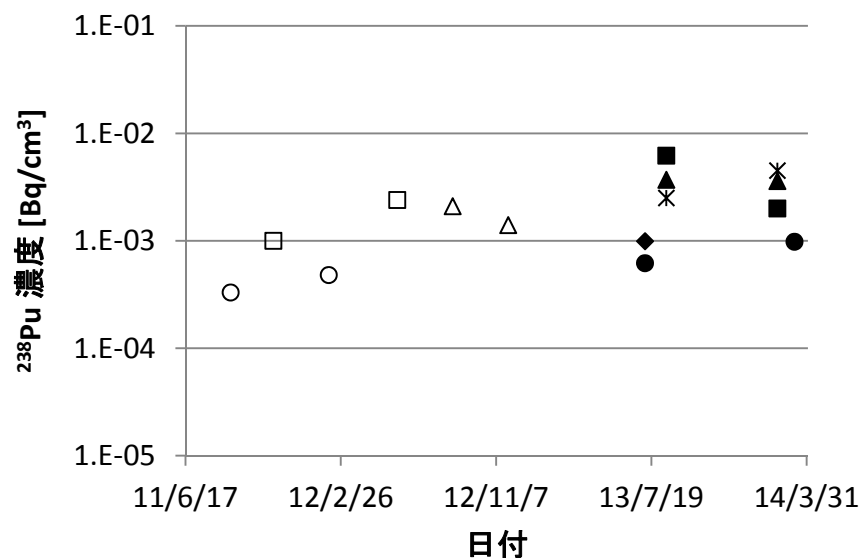
# β 線放出核種分析結果



- : KURION 入口水 (今回)      ○: (既報告)
- : SARRY 入口水 (今回)      □: (既報告)
- ◆: KURION 出口水 (今回)    ◇: (既報告)
- \*: SARRY A系 出口水 (今回)
- ▲: SARRY B系 出口水 (今回)   △: (既報告)

➤ <sup>3</sup>H, <sup>90</sup>Sr: 濃度の低下は鈍化傾向である。

# α線放出核種分析結果



- : KURION 入口水 (今回)      ○: (既報告)
- : SARRY 入口水 (今回)      □: (既報告)
- ◆: KURION 出口水 (今回)      ◇: (既報告)
- \*: SARRY A系 出口水 (今回)
- ▲: SARRY B系 出口水 (今回)    △: (既報告)

- 238Pu: これまでの分析結果と同程度。
- 239+240Pu: これまでの分析結果と同程度。

【参考】「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則の規定に基づく線量限度等を定める告示」における周辺監視区域外の水中の濃度限度  
 $^{238}\text{Pu}$ 、 $^{239}\text{Pu}$ 、 $^{240}\text{Pu}$ のいずれも  $4 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$



## 参考 (Pu検出に関する評価)

### ■ Puの由来

- $^{238}\text{Pu}/^{239+240}\text{Pu}$ の放射能比から、今回検出されたPuは福島第一原子力発電所事故に由来するものと考えられる。

### ■ 処理した汚染水中のPu量の試算

処理した汚染水120万トン中のPu質量：約0.15 g

(参考 1～3号機合計の炉心燃料Pu質量推定値：約1.8t※)

- これまでに処理した汚染水 (H27年4月9日時点で約120万t) が今回の分析値と同程度の放射能濃度と仮定
- 分析値誤差の小さい $^{238}\text{Pu}$ 放射能濃度とPu同位体組成の推定値※を用いてPu合計質量を算出

※ 出典：日本原子力機構研究報告書「JAEA-Data/Code 2012-018」

# まとめ

## ■ 検出された核種

$^3\text{H}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{90}\text{Sr}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ ,  $^{238}\text{Pu}$ ,  $^{239+240}\text{Pu}$

- これまでの分析結果と燃料インベントリを比較すると、 $\alpha$ 核種は汚染水処理設備の入口水、出口水にほとんど含まれていないと考えられる。
- 出入口濃度の差が小さい核種については、データのばらつきを考慮すると水処理二次廃棄物のインベントリ評価が難しいため、解析等により推定する手法もあわせて検討している。
- 平成23年度より廃棄物試料の分析を実施している。引き続き試料採取、分析を行い、事故の影響が考えられる廃棄物の放射能濃度等に関するデータの蓄積に努め、廃棄物の処理・処分の研究開発に活用していく。

# 参考資料

## 水試料の放射能分析

# γ線放出核種分析結果

No.	試料名	放射能濃度[Bq/cm <sup>3</sup> ]				
		<sup>60</sup> Co (約5.3年)	<sup>94</sup> Nb (約2.0 × 10 <sup>4</sup> 年)	<sup>137</sup> Cs (約30年)	<sup>152</sup> Eu (約14年)	<sup>154</sup> Eu (約8.6年)
3	LI-RW2-1 ※1	(1.2±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 1 × 10 <sup>-1</sup>	(4.6±0.1) × 10 <sup>4</sup>	< 4 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
4	LI-RW2-2	< 5 × 10 <sup>-2</sup>	< 8 × 10 <sup>-2</sup>	(2.5±0.1) × 10 <sup>4</sup>	< 3 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
5	LI-HTI2-1	(3.2±0.1) × 10 <sup>-2</sup>	< 7 × 10 <sup>-2</sup>	(2.6±0.1) × 10 <sup>4</sup>	< 3 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
6	LI-HTI2-2 ※1	(5.2±0.3) × 10 <sup>-1</sup>	< 7 × 10 <sup>-2</sup>	(1.5±0.1) × 10 <sup>4</sup>	< 3 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
7	LI-KU2-1 ※2	(2.2±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 9 × 10 <sup>-2</sup>	(3.5±0.1) × 10 <sup>1</sup>	< 4 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
8	LI-SA2-1 ※2	(5.4±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 7 × 10 <sup>-2</sup>	(4.9±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
9	LI-SA2-2	(5.5±0.9) × 10 <sup>-2</sup>	< 7 × 10 <sup>-2</sup>	(2.9±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
10	LI-SA2-3	< 4 × 10 <sup>-2</sup>	< 6 × 10 <sup>-2</sup>	(2.3±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>
11	LI-SA2-4 ※2	(2.2±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 7 × 10 <sup>-2</sup>	(2.7±0.2) × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>	< 2 × 10 <sup>-1</sup>

- <sup>60</sup>Co: 2試料を除き検出。
- <sup>137</sup>Cs: 全ての試料で検出。
- <sup>94</sup>Nb, <sup>152</sup>Eu, <sup>154</sup>Eu: 全ての試料で不検出。

放射能濃度は、試料の輸送日において補正。(2014.9.25の値)  
分析値の±の後の数値は、計数値誤差である。

※1 <sup>137</sup>Cs濃度は浮遊物(沈殿物)込みでの分析結果  
※2 <sup>60</sup>Co, <sup>137</sup>Cs濃度は浮遊物(沈殿物)込みでの分析結果



# β 線放出核種分析結果

No.	試料名	放射能濃度 [Bq/cm <sup>3</sup> ]	
		<sup>3</sup> H (約12年)	<sup>90</sup> Sr (約29年)
3	LI-RW2-1	$(8.7 \pm 0.1) \times 10^2$	$(3.6 \pm 0.1) \times 10^4$
4	LI-RW2-2	$(3.9 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.3 \pm 0.1) \times 10^4$
5	LI-HTI2-1	$(5.5 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.3 \pm 0.1) \times 10^4$
6	LI-HTI2-2	$(3.6 \pm 0.1) \times 10^2$	$(1.4 \pm 0.1) \times 10^4$
7	LI-KU2-1	$(8.9 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.4 \pm 0.1) \times 10^4$
8	LI-SA2-1	$(5.0 \pm 0.1) \times 10^2$	$(1.9 \pm 0.1) \times 10^4$
9	LI-SA2-2	$(4.9 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.1 \pm 0.1) \times 10^4$
10	LI-SA2-3	$(3.7 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.2 \pm 0.1) \times 10^4$
11	LI-SA2-4	$(3.6 \pm 0.1) \times 10^2$	$(2.3 \pm 0.1) \times 10^4$

➤ <sup>3</sup>H, <sup>90</sup>Sr: 全ての試料で検出。

放射能濃度は、試料の輸送日において補正。(2014.9.25の値)  
分析値の±の後の数値は、計数値誤差である。

# α線放出核種分析結果

No.	試料名	放射能濃度 [Bq/cm <sup>3</sup> ]			
		<sup>238</sup> Pu (約88年)	<sup>239</sup> Pu+ <sup>240</sup> Pu	<sup>241</sup> Am (約4.3 × 10 <sup>2</sup> 年)	<sup>244</sup> Cm (約18年)
3	LI-RW2-1	(6.2 ± 1.4) × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>	< 4 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
4	LI-RW2-2	(9.8 ± 2.3) × 10 <sup>-4</sup>	< 5 × 10 <sup>-4</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
5	LI-HTI2-1	(6.2 ± 0.4) × 10 <sup>-3</sup>	(1.7 ± 0.2) × 10 <sup>-3</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
6	LI-HTI2-2	(2.0 ± 0.2) × 10 <sup>-3</sup>	(7.7 ± 1.2) × 10 <sup>-4</sup>	< 4 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
7	LI-KU2-1	(9.9 ± 1.8) × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
8	LI-SA2-1	(2.5 ± 0.4) × 10 <sup>-3</sup>	(8.4 ± 1.8) × 10 <sup>-4</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
9	LI-SA2-2	(3.7 ± 0.5) × 10 <sup>-3</sup>	(1.1 ± 0.2) × 10 <sup>-3</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
10	LI-SA2-3	(4.5 ± 0.3) × 10 <sup>-3</sup>	(1.9 ± 0.2) × 10 <sup>-3</sup>	< 6 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>
11	LI-SA2-4	(3.6 ± 0.3) × 10 <sup>-3</sup>	(1.2 ± 0.2) × 10 <sup>-3</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>	< 3 × 10 <sup>-4</sup>

- <sup>238</sup>Pu: 全ての試料で検出。  
今回の検出値は、これまでの水試料の分析結果と同程度。
- <sup>239+240</sup>Pu: KURION入口水の2試料とKURION出口水の1試料を除き検出。
- <sup>241</sup>Am, <sup>244</sup>Cm: 全ての試料で不検出。

放射能濃度は、試料の輸送日において補正。(2014.9.25の値)  
分析値の±の後の数値は、計数値誤差である。

# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟設置工事の進捗について

2015年7月30日  
東京電力株式会社

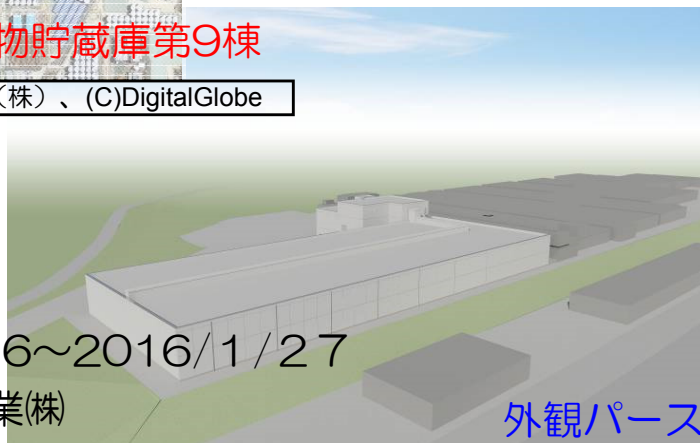
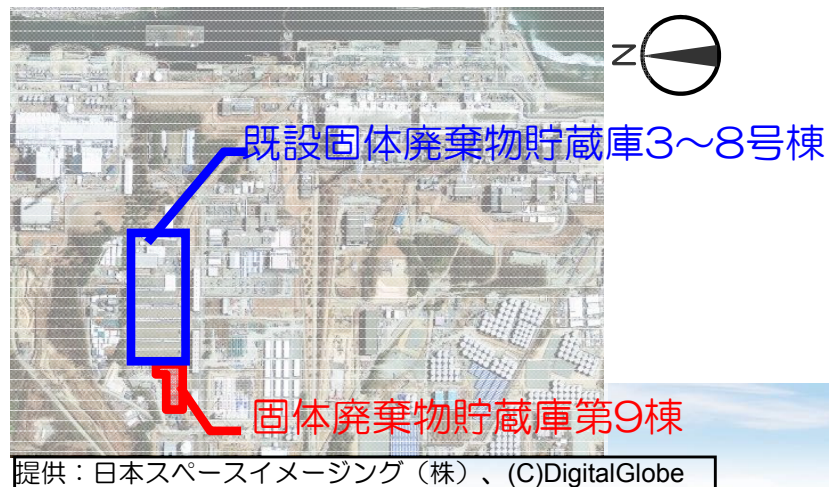
# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟設置工事の内建屋設置準備工事

## ◆ 工事概要

構内に仮置きしている放射性廃棄物を建屋内に保管するため、既設固体廃棄物貯蔵庫3～8号棟の西側に、固体廃棄物貯蔵庫第9棟を増設する。（準備工事：一次掘削まで）

[建物構造・規模]

耐震 等級	構造	階数		軒高 (m)	建築面積 (m <sup>2</sup> )	延床面積 (m <sup>2</sup> )
		地下	地上			
C	RC造	2	2+ PH	16.1	6,785.16	26,994.32



## ◆ 主な作業内容

- 構内整備
- 土捨場場内整備，発生土運搬
- 鋼矢板打設
- 測量



現場の全景写真



作業状況写真

◆ 工期：2014/7/16～2016/1/27

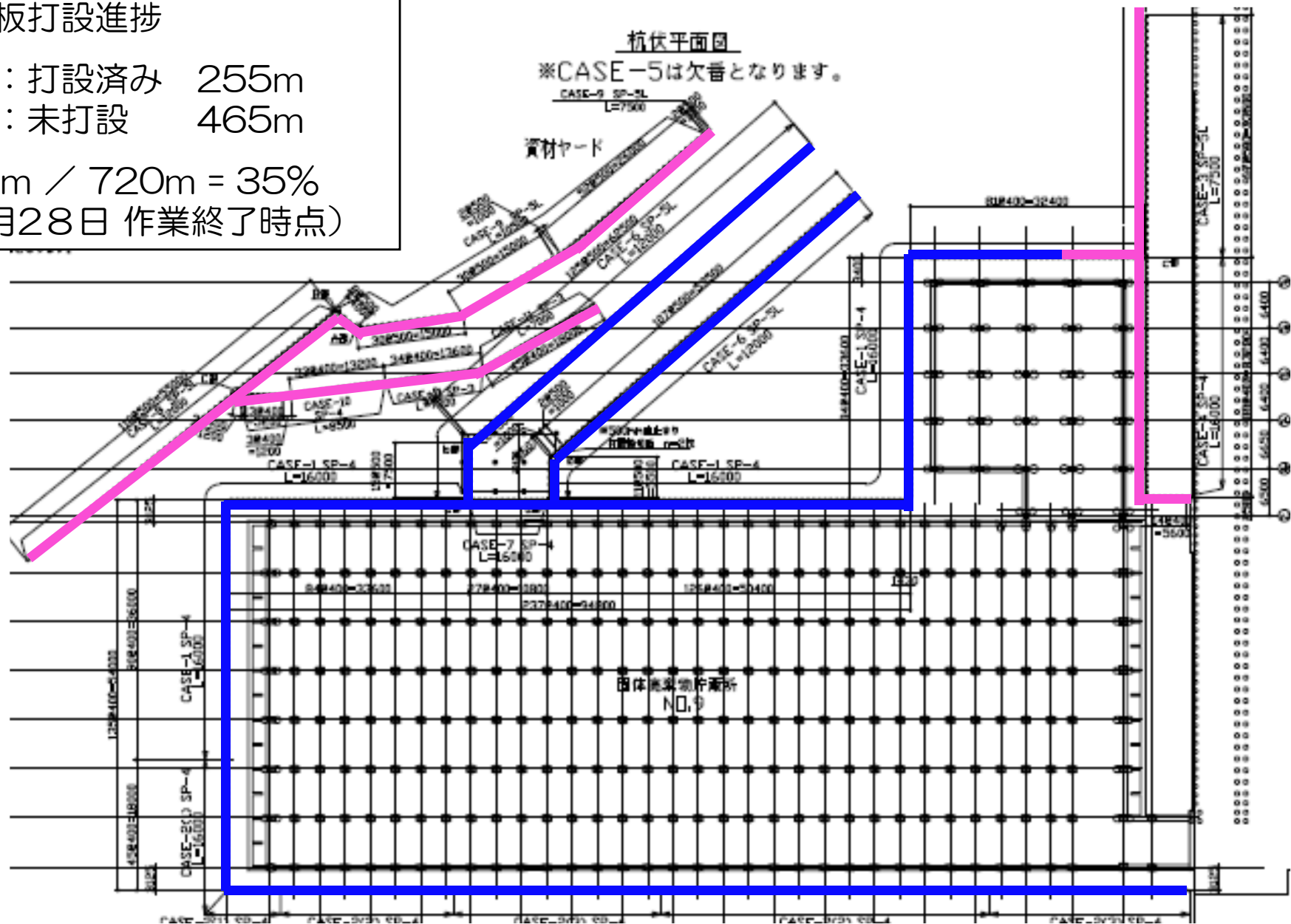
◆ 請負会社：前田建設工業(株)

# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟設置工事の内建屋設置準備工事

## 鋼矢板打設進捗

- : 打設済み 255m
- : 未打設 465m

255m / 720m = 35%  
(7月28日 作業終了時点)



# 固体廃棄物貯蔵庫第9棟設置工事の内建屋設置準備工事

## ■ 固体廃棄物貯蔵庫第9棟設置工事 工事工程表

2015年7月30日時点

		2015						2016			
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
地盤改良	計画	■									
	実績	■									
一次掘削 二次掘削	計画	■				■					
	実績	■									
杭工事	計画			■							
	実績										
躯体工事	計画					■ →					
	実績										